
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

【報告】

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用共同研究課題「負債の動態に関する比較民族誌的研究(2)―人間経済における負債の多元性, 相克, 創造性」2022年度第1回研究会(通算第1回目)

日時:

開催日: 2022年7月10日(土) 10:00~17:00

場所:

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 304 室、オンライン会議室

プログラム:

13:00~15:00 佐久間寛「【趣旨説明】モラル、貨幣、経済―『負債論』の意義と課題―」

15:15~17:45 全員「所信表明」

18:00~18:30 全員「打ち合わせ」

参加者: 19名

内容:

初回にあたる本研究会では、まず、研究代表者である佐久間が趣旨説明を行った。人間にとり負債とは何か。本研究は、この問いの答えを世界の民族誌的事例から探求する取り組みの第2期である。第1期ではアジア・アフリカ・オセアニア諸社会をめぐる民族誌的事例を幅広く検討してきたのに対し、第2期では、こうした事例研究から得られた着想を、「人間経済をめぐる多元性、相克、創造性」という主題のもとで総合的に考察することが主題となる。このプロセスをすすめるうえで引き続き重要な理論的基盤となるのが、D・グレーバーの『負債論』である。佐久間は同書からモラル論、貨幣論、経済論という相互に関連する3つの理論的主題を導出し、これら3主題と各メンバーが第1期に報告した研究内容とがいかに関連付けられるかを明らかにしようと試みた。

つぎに、メンバー全員による所信表明が行われた。各人が簡単な自己紹介と研究の概要を説明したうえで、いかなる関心にもとづいて負債を研究し、その研究によって研究会全体へいかに貢献できるかについての展望をしめした。

最後に、次回研究会は9月に開催することとし、寺内、小田、古川の3名が報告を行うことを決定した。

(文責 佐久間)